

治 宰 太

相馬正一



津輕書房

太宰治

相馬正一

津軽書房

著者紹介

そうま しょういち

昭和4年生まれ 弘前大学教育学部卒業 現在青森県立弘前高等学校教諭 著書に『若き日の太宰治』(筑摩書房)『太宰治と井伏鱒二』(津軽書房)などがある

現住所・青森県弘前市松原東2-12-1

太宰治

昭和五十四年六月十日初版発行

定価九八〇円

著者 相馬正一

印刷者 青木 勇

発行者 高橋 彰一

青森県弘前市徒町一六番地福井ビル

津 軽 書 房

電話〇一七二一三三一四二番
振替秋田二三七四番
郵便番号 〇三六

印刷 精興社
製本 美成社

覚

津島文治ト津島修治ト向ニ元記条項ヲ約スルモノトス以下
津島文治ヲ甲トシ津島修治ヲ乙ト稱ス

第一條 昭和五年十一月七日甲乙両方協定シ元覚ハ兩方無効トス

第二條 乙ハ宗譜ヲ他ニ轉セドスルヲ甲ノ同意ヲ得ルナシ

第三條 乙ト山初代ト結婚同居生活ヲ営ム限リ昭和八年四月迄其生活
費用トシテ毎月壹百貳拾円ガ甲ハ乙ヘ支給スルナシ

但シ乙ノ單獨生活ヲ行フトキハ支給生活費ハ月額八拾円也トス

第四條 昭和八年四月限り年額四百貳拾円ノ割ヲ以テ甲乙ノ生活予備
費トシテ甲之ヲ保管シ利息ヲ附セズ乙ノ生活止テ又出ノ

止ムヲ得タルモノト甲認メタルキハ隨時乙ニ支給スルモノトス

不支出残款ハ昭和八年四月世ニ乙ニ之ヲ給與スルモノトス

第五條 宗譜又若キ在甲ハ校考科ハ在乙ニヨリ甲乙ニ支給スルナシ

昭和6年1月27日，初代との結婚の際、
兄文治と太宰が交わした覚書の一部

太宰治 目次

太宰治の肖像

はじめに

11

I 苦悩の青春

14

生い立ち

14

井伏鱒二との出会い

26

コミュニティ旋風

31

義絶とその周辺

47

II 排除と反抗

58

鎌倉入水事件の余波

作家への道

筆名の由来

パピナール中毒事件

水上温泉心中行

Ⅲ 愛と死

二つの縁談

「斜陽」の女との出会い

死とその前後

58

68

77

82

102

120

120

135

154

作家論

「走れメロス」の背景

169

「お伽草紙」の世界

208

あとがき

246

太宰治

太宰治の肖像

はじめに

作家に伝説はつきものですが、昭和文学の中で太宰治ほど脚色されて語られている作家も珍しいのではないかと思います。一般に太宰文学は太宰の私生活をそのまま書いた文学であると考えられています。これは太宰文学を私小説の系列の中で取り扱うことによって、作品から直ちに作家の実生活を勘ぐるうとする自然主義的な文学観の通弊から生じた現象です。太宰は作品の中で「わたくし」とか「ぼく」というふうに一人称を用いています。それをイコール太宰自身と考えますと、太宰という人間は実に奇妙な人生を生きることになります。しかし、最近いろいろ調べてみましたら、実生活と作品の中に描かれている生活とはかなり違っていることが判りましたので、そのことから話を進めてみたいと思います。

先ず、生まれてから高等学校を卒業するまでの時期ですが、これは今までは殆ど知られていませんでした。これまで年譜に書かれてきたことは、大体太宰が作品に書いていること

をそのまま事実と思ひこんで年譜を作成しているので、かなりの間違いがあります。筑摩版の『定本太宰治全集』の巻末年譜作成の時は私も少し手伝いましたが、既に紙型をとってしまった後だったので、改行しない程度の訂正しかできませんでした。筑摩版以外の年譜には作品の章句をそのまま引用しているものが多く、幼少時から高校を卒業するまでの生活も伝説化されたままになっています。

従って、この時期の後に続く太宰とコミニズムとの関係も、一体どの程度のものであったのかということになると、何一つ明らかにされていないのが現状です。近年このことに関して東奥日報紙上に展開された大沢久明と山岸外史の論争も作品の中に描かれたコミニズム問題に終始しているために、現実の太宰とは無関係に土俵外で論旨不明の相撲をとっているようなものです。

次に、太宰と自殺の問題があります。太宰は最後の心中自殺を数えないでも、都合四回の自殺未遂をやっています。このことについてもこれまでいろいろ取り沙汰されてきましたが、その四回の自殺未遂は一体どういう動機で行なわれたものかということになりますと、これまた作品以外に何一つ手懸りがないために、殆どが作品の章句のみで説明されています。また、最後の心中自殺についても、相手の山崎富栄がどんな女性であり、二人がどんな動機と経緯で心中したのかということになりますと、明確な回答はやはり得られないのが現状です。

このように考えてみますと、資料的にもかなりリアリティがなければならぬはずの年譜が、現実の太宰治に関しては曖昧なイメージしか与えていないということになります。書かれていることの多くは作品化された太宰であって、それをそのまま鵜呑みにすると太宰治の虚像を実像と思いこんで接することになってしまいます。

I 苦悩の青春

生い立ち

太宰治（戸籍名・津島修治）は明治四十二年（一九〇九）六月十九日に北津輕郡金木村に生まれました。父源右衛門・母たねの第十子です。長兄総一郎と次兄勤三郎は生まれた年に病歿しているので、三兄文治が事実上の長兄の立場にありました。明治四十五年に生まれた弟礼治を含めて、全部で十一人兄弟だったのです。このほか同居中の叔母の娘たちが四人いましたので、ちょっとした単級小学校のような感じだったと思います。

当時の津島家は県内長者番付の第四位を誇る家柄で、文字どおり「県下有数の大地主」でした。太宰が生まれる二年前に新築落成したばかりの大邸宅には家族と使用人を合わせて常時三